



# 病診連携通信

## 第15号

公益財団法人  
湯浅報恩会  
寿泉堂綜合病院  
平成29年1月

### 急性期脳梗塞患者さんに対する血栓溶解療法(t-PA静注療法)

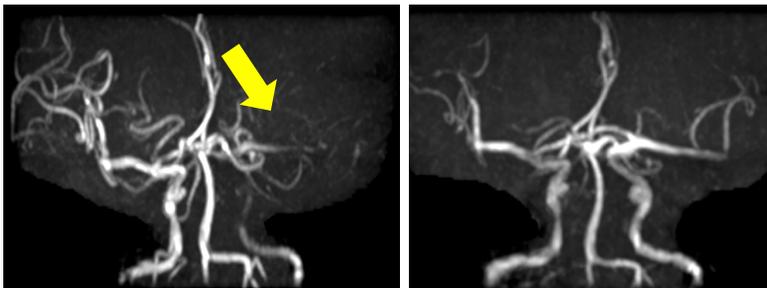
急性期脳梗塞患者さんに対する組織プラスミノゲンアクチベータ(tissue plasminogen activator: t-PA)静注療法は、2005年に日本で保険適応となり、当初「発症から3時間以内」であった使用基準が、2012年からは「4.5時間以内」に拡大され、対象となる患者さんが増えています。

治療は、通常の点滴と同様に、脳の血管に詰まってしまった血栓(血の塊)を溶かす薬を点滴し、症状改善を図ります(図1)。この「t-PA静注療法」を行うことによって、患者さんが社会復帰できる確率が1.5倍に増えることが分かっています。急性期脳梗塞の治療は時間との勝負です。t-PA静注療法は発症から4.5時間以内の脳梗塞患者さんにしか使えませんし、早く治療すればするほど効果が期待できます(図2)。出血などの副作用もあるため、細かな使用基準を確認するためには、頭部や胸の画像検査、血液検査の結果を確認しなければなりません。それらを考慮すると、できれば病院には発症から3.5時間以内に到着することが望まれます。

脳卒中が疑われる患者さんがおられましたら、お気軽にご相談・ご紹介ください。脳卒中が疑われる患者さんを簡便に見極めるためのポイントとして、「FAST」テストがあります。F:Face、顔のゆがみ、A:Arm、(片側の)腕の脱力、S:Speech、呂律が回らない、をチェックし、いずれかでも陽性であれば、T:Time、発症時間を確認してご紹介頂くテストです。もちろん、これ以外の多彩な症状を呈することも珍しくありませんので、その際はお気軽にご相談ください。

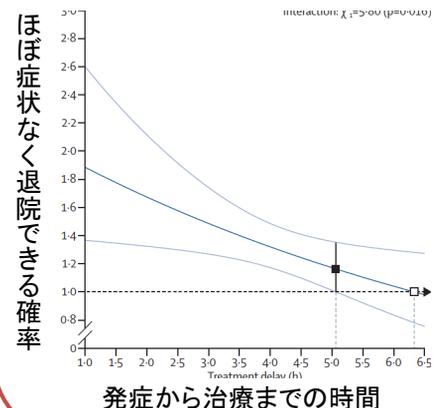
(脳卒中科:坂本悠記)

図1



85歳男性、意識障害、右片麻痺、失語にて発症2時間で救急搬送。MRIでは左中大脳動脈の閉塞を認めた(左図矢印)。t-PA投与1時間後、閉塞血管が完全に再開通し(右図)、症状も劇的に改善した。

図2



寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または  
☎024-932-6363 (代表) にお願ひ致します。